

2026年度

山陽学園大学大学院

看護学研究科看護学専攻
修士課程

学生募集要項



【大学院の目的】

山陽学園大学大学院は、明治19年の学園創立以来一貫して培われた「愛と奉仕の精神」を基礎とし、教育基本法及び学校教育法の定めるところにより、看護学分野に関する学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、看護実践能力の向上を図り、地域社会における人々の健康と福祉の向上及び看護学の発展に寄与することを目的とする。

【大学院研究科の目的】

本研究科は、看護学分野における高度な専門的知識・能力をもつ看護専門職を担うための卓越した能力を培い、看護学の発展及び地域の保健・医療・福祉の向上に貢献する人材を育成することを目的とする。

【アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）】

本研究科では、次に掲げるような人を望ましい学生像とし、積極的に受け入れたいと考えています。

1. 看護学の基礎知識と総合的な学力を有し、豊かな人間性と高い探究心を持って、主体的に看護実践の向上に寄与できる人
2. 高度専門職業人又は教育研究者として、看護学（知識及び技能）の発展に貢献する意欲のある人
3. 保健・医療・福祉の諸問題に積極的に取り組み、問題解決に向けた思考力や判断力を養いながら、研究を遂行できる人
4. 高い倫理観を有し、地域社会に貢献する意志と責任感を持った人

目 次

1. 募集人員	2
2. 出願資格	2
3. 出願資格認定審査	2
4. 出願希望者の事前相談及び担当教員	3
5. 出願書類	4
6. 入学検定料	5
7. 入学試験関係日程及び内容	5
8. 合格発表	6
9. 入学手続	6
10. 学納金	7
11. 長期履修制度	7
12. 一般教育訓練給付制度	7
13. 奨学金	7
14. 授業科目一覧表	8
15. 授業科目の概要・担当教員	9～11
専門看護師認定審査の受験資格について	12
学内案内図・アクセス	

個人情報の取り扱いについて（必ずお読みください）

出願時に提出された個人情報に関しては、入学試験選考・入学に関わる事務手続及び受験者の所属校で行われる進路指導に対する状況報告以外の目的には使用いたしません。

以上の取り扱いについては入試部にお問い合わせください。

障がい等のある方の出願について

障がい等があり、本学の受験及び修学上特別な配慮が必要と思われる方は、各入学試験の出願期間開始の約1ヶ月前までに入試部にご連絡ください。

1. 募集人員

研究科	課 程	修業年限	入学定員	
看護学研究科	修士課程	2 年	一般選抜	6 名
			社会人特別選抜※	

※社会人特別選抜：入学時に専門的実務に従事しており、入学後も引き続き勤務を続ける者を対象とする。

2. 出願資格

次のいずれかに該当する者で、原則として看護師免許を取得した者（2026 年 3 月 31 日までに該当する見込みの者を含む。）

- ① 大学を卒業した者
- ② 学士の学位を授与された者
- ③ 外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者
- ④ 外国の大学（その他の外国の学校のうち文部科学大臣が指定するものを含む。）において、修業年限が 3 年以上である課程を修了することにより学士の学位に相当する学位を授与された者
- ⑤ 文部科学大臣の指定した者
- ⑥ 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

ただし、CNS コースを希望する者は、12 頁の「専門看護師認定審査の受験資格について」を参照するとともに日本看護協会のHPを参照してください。

3. 出願資格認定審査

出願資格⑤、⑥で出願を希望する者は、出願前に出願資格の認定審査を受けてください。なお、Ⅲ期は入学定員に満たない場合のみ実施します。

(1) 申請期間

- I 期：2025 年 7 月 7 日（月）～ 2025 年 7 月 22 日（火）必着
Ⅱ期：2025 年 10 月 17 日（金）～ 2025 年 10 月 31 日（金）必着
Ⅲ期：2026 年 1 月 14 日（水）～ 2026 年 1 月 30 日（金）必着

(2) 提出書類 ※本学所定の用紙は本学ホームページからダウンロードし使用してください。

- ① 出願資格認定申請書（本学所定の用紙）
- ② 最終学歴の卒業（見込）証明書及び成績証明書（出身学校長が作成し、封印したもの。）
- ③ 研究計画書（本学所定の用紙）
- ④ 本学が必要と認める書類

(3) 申請方法

各自で準備した封筒に「出願資格認定申請書在中」と朱書し、本学入試部まで郵送してください。

(4) 結果通知

申請者には次の期日までに「出願資格認定の審査結果を」書面にて通知します。期日までに結果の通知が届かない場合には、本学入試部までお問い合わせください。

- I 期：2025 年 8 月 6 日（水）
Ⅱ期：2025 年 11 月 20 日（木）
Ⅲ期：2026 年 2 月 6 日（金）

出願資格を認定された者は、4～5 頁の出願期間及び手続により出願してください。

4. 出願希望者の事前相談及び担当教員

出願希望者は出願前に、各自の希望する分野の教員と電子メール等で連絡を取り、大学院における研究等について必ず相談してください。（事前相談は、研究科への入学を保証するものではありません。本研究科に入学した場合、入学後の教育・研究指導をスムーズに行うためのものです。）

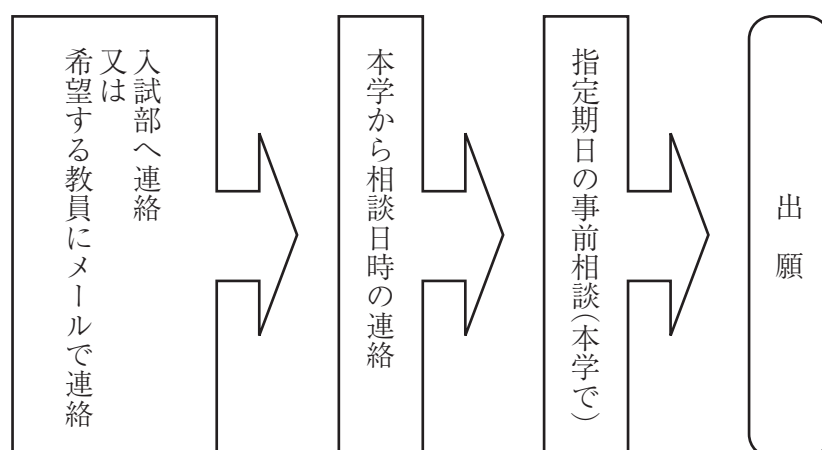
*教員の担当科目は、授業科目の概要（9～11頁）を参照してください。

*入試部へ連絡の際には電話（086-272-4024 月～金曜日 9:00～17:00）又は電子メール（nyushi@sguc.ac.jp）にてお願いします。

（2026年度予定）

コース名・分野名		担当教員	メールアドレス
研究コース	感染看護学	渡邊都貴子	tokiko_watanabe@sguc.ac.jp
	成人看護学	村田 幸治	kohji_murata@sguc.ac.jp
	コミュニティヘルス看護学	高木 二郎 田村 裕子	jiro_takaki@sguc.ac.jp hiroko_tamura@sguc.ac.jp
	精神看護学	揚野裕紀子 井田 裕子	yukiko_ageno@sguc.ac.jp yuko_ida@sguc.ac.jp
CNS コース	精神看護学	揚野裕紀子 井田 裕子	yukiko_ageno@sguc.ac.jp yuko_ida@sguc.ac.jp

【事前相談から出願への流れ】



5. 出願書類

出願書類		摘 要
①	入学志願書	本学所定の用紙 必要事項を記入し、写真(縦4cm×横3cm)を貼付してください。
②	研究計画書	本学所定の用紙 ※出願資格認定審査で提出した場合も改めて提出してください。
③	受験許可書	本学所定の用紙 社会人特別選抜で出願する場合は、勤務する施設長から受験許可書を提出してください。
④	受験票・写真票・入学検定料 払込受付証明書貼付票	本学所定の用紙 必要事項を記入し、写真票に写真(縦4cm×横3cm・入学志願書と同じもの)を貼付してください。また、入学検定料の振替払込請求書兼受領証を貼付してください。
⑤	卒業(見込)証明書	出身大学長等が作成、封印したもの ※2026年3月卒業見込みの者は、卒業見込証明書を提出してください。 ※出願資格認定審査で提出した場合は、提出する必要はありません。
⑥	成績証明書	大学等の成績証明書で、出身大学(学部)の長が作成、厳封したもの。 ※出願資格認定審査で提出した場合は、提出する必要はありません。
⑦	看護師免許証の写し	看護師免許を取得している者は提出(A4判に縮小)してください。 ※取得見込み者は提出する必要はありません。
⑧	入学検定料	30,000 円 次頁の6. 入学検定料を参照してください。
⑨	受験票返送用封筒	各自で準備した定形長形3号(120mm×235mm)の封筒に、郵便番号・住所・氏名を明記し、普通郵便料金+速達料金分の切手を貼付してください。

注1) 出願書類のうち、本学所定の用紙は本学ホームページからもダウンロードできます。

注2) 出願書類は、出願前3ヶ月以内に発行されたものとします。

注3) 出願書類のうち、外国語で記載されたものは、すべて日本語訳を添付してください。

注4) 外国における出身大学等の卒業証書及び成績証書を提出する場合は、それぞれ原本を提出してください。原本は照合後、返還します。

注5) 外国籍の者は、住民票及びパスポートの写し(氏名と顔写真の確認ができる頁のコピー)を併せて提出してください。

【出願上の注意】

上記の書類を出願期間中に入試部に提出してください。

- (1) 郵送の場合は、市販の角形2号(240mm×332mm)の封筒を各自で準備し、必ず簡易書留・速達とし、出願期間最終日の16:30までに必着です。
- (2) 直接窓口に出願する場合の受付時間は9:00～16:30です。(土・日、祝日及び本学の定める休日は除きます。)
- (3) 受理した出願書類及び一度払い込まれた入学検定料は返還しません。
- (4) 出願書類が不備のものは受け付けられません。
- (5) 出願書類に虚偽の記入をした場合は、入学後であっても入学許可を取り消すことがあります。

6. 入学検定料 30,000 円

入学検定料は、郵便局・ゆうちょ銀行に備付けの青色の「振替払込用紙」を使用し、次の口座まで払い込んでください。払い込み後、「振替払込請求書兼受領証」のコピーを出願書類の所定の欄に貼付してください。本学に入学願書を窓口提出される場合は、現金でも結構です。

払込先口座番号 01320-4-30959
加入者名 学校法人 山陽学園
通信欄記入事項 2026 年度 大学院 入学検定料納入

7. 入学試験関係日程及び内容 ※一般選抜・社会人特別選抜共通

	I 期	II 期	III 期
出願期間	2025年8月5日(火)～ 2025年8月21日(木)必着	2025年11月20日(木)～ 2025年12月4日(木)必着	2026年2月3日(火)～ 2026年2月12日(木)必着
入学試験日	2025年8月30日(土)	2025年12月13日(土)	2026年2月21日(土)
試験場	本学(山陽学園大学)		
選抜方法	英語、専門科目(口述試験)、面接、書類審査の結果を総合して選考します。		
試験時間割	9:20～9:30		受験上の注意
	9:30～11:00 (90分)		英語
	11:30～		専門科目(口述試験)・面接

注1) III期は入学定員に満たない場合のみ実施します。

注2) 英和辞書の持ち込み可(ただし電子辞書の持ち込みは認めません。)なお、外国籍の者には、英和辞書以外に英和辞書に相当する母国語の辞書(英韓辞書等)の持ち込みを認めます。

【受験上の注意】

- (1) 試験開始時刻 10 分前までに、所定の試験室に入ってください。
- (2) 試験室では受験番号と同じ机上番号の席につき、受験票を机上に置いてください。
- (3) 試験開始後の遅刻者は、原則として試験室への入室を許可しません。ただし、やむを得ない事情で遅れた場合には、直ちに係員に申し出て指示に従ってください。
- (4) 受験票を忘れた場合は、実施本部へ申し出てください。
- (5) 試験の際、携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチ等の電子機器は使用できません。電源を切ってかばん等に入れてください。
- (6) 上履きは必要ありません。

8. 合格発表

合格発表日		発表方法
I 期	2025 年 9 月 6 日(土)	合否結果は合格発表日当日、本学から本人に文書で郵送しますので、受け取りに 1～2 日かかる場合があります。電話による問い合わせには応じません。
II 期	2025 年 12 月 20 日(土)	
III 期	2026 年 2 月 28 日(土)	

9. 入学手続

入学希望者は、合格通知と共に郵送する「入学手続について」の内容に従って、手続をしてください。

(1) 手続書類

誓約書（本学所定の用紙）を下記入学金納入期限までに入試部へ提出してください。

(2) 入学金の納入

合格通知書に同封の銀行振込依頼書により次表の納入期限までに納入してください。

入試区分	納入期限	納入金額
I 期	2025 年 9 月 16 日(火)	入学金 150,000 円 ^{注)}
II 期	2026 年 1 月 6 日(火)	
III 期	2026 年 3 月 9 日(月)	

注) 本学出身者は入学金が免除になります。

一度納入された入学金は、事由の如何にかかわらず返還できません。

(3) 前期授業料の納入

本学から別途送付する銀行振込依頼書により次表の納入期間に納入してください。

入試区分	納入期限	納入金額
I 期	2026 年 3 月 13 日(金) ～ 2026 年 3 月 19 日(木)	前期授業料 500,000 円
II 期		学生教育研究災害 傷害保険料等(2年分) 2,430 円 ^{注 1)}
III 期		計 502,430 円 ^{注 2)}

注 1) 教育研究活動中に被った災害に対して必要な補償が受けられるよう、全員に加入いただいています。補償対象や保険給付内容などの詳細は学生部にお問い合わせください。なお、長期履修制度による入学者は納入金額が 3,620 円になります。

注 2) 長期履修制度による入学者は納入金額が 353,620 円になります。次頁の 11. 長期履修制度を参照してください。

期限までにこれらの手続が完了しないときは、入学の意思がないものとして取り扱います。

10. 学納金

標準課程（2026 年度）

	入学手続時	2026 年度（1 年目）			2027 年度 年額（2 年目）
		前期	後期	合 計	
入学金	150,000 円	—	—	—	—
授業料	—	500,000 円	500,000 円	1,000,000 円	1,000,000 円
学生教育研究 災害傷害保険料等	—	2,430 円	—	2,430 円	—
合 計	150,000 円	502,430 円	500,000 円	1,002,430 円	1,000,000 円

注 1) 上記以外に実習に関する費用を別途徴収する場合があります。

注 2) 納入期限は、前期を 4 月 26 日、後期を 10 月 26 日としていますが、土・日、祝日の場合はその翌営業日とします。なお、1 年目の前期学納金の納入期限は、入学手続時に指定した期限とします。

11. 長期履修制度

職業を有する等の事情により、標準修業年（2 年）を超えて一定の期間（上限 3 年）にわたり計画的に教育課程を履修し、課程を修了することを申し出た場合（入学前の 2 月末まで、Ⅲ期は入学金納入期限まで）は、審査の上、計画的な履修を認めます。その場合の授業料の支払い額は次のとおりです。本制度の詳細については担当教員にご相談ください。

	入学手続時	1 年目			2 年目 (年額)	3 年目 (年額)
		前期	後期	合 計		
入学金	150,000 円	—	—	—	—	—
授業料	—	350,000 円	350,000 円	700,000 円	700,000 円	600,000 円
学生教育研究 災害傷害保険料等	—	3,620 円	—	3,620 円	—	—
合 計	150,000 円	353,620 円	350,000 円	703,620 円	700,000 円	600,000 円

12. 一般教育訓練給付制度

本学大学院看護学研究科看護学専攻「看護学研究コース」・「精神看護 CNS コース」ともに教育訓練給付制度の指定講座であり、看護学研究科看護学専攻の入学者で、一定の条件を満たす方が所定の申請を行うことにより、教育訓練経費（学納金等）の 20%（上限額 10 万円）が支給されます。

制度の詳細や受給資格の有無等については、ハローワーク（公共職業安定所）にお問い合わせください。

13. 奨学金

日本学生支援機構奨学金（2025 年度額）

奨学金の貸与を希望する方は、入学後指示された期間内に学生部に申し込んでください。選考により奨学金が貸与されます。

貸与月額

第一種（無利子）：希望する月額を次の中から選べます。

50,000 円、88,000 円

授業料後払い制度

授業料支援金、生活費奨学金があります。制度の詳細は日本学生支援機構ホームページをご確認ください。

第二種（有利子）：希望する月額を次の中から選べます。

50,000 円、80,000 円、100,000 円、130,000 円、150,000 円

14. 授業科目一覧表

科目区分		授業科目	単位数	
			必修	選択
共通科目		看護理論	2	
		看護研究	2	
		看護倫理		2
		看護教育論		2
		看護管理論		2
		コンサルテーション論		2
		国際医療論		2
		臨床薬理学※		2
		病態生理学※		2
		フィジカルアセスメント※		2
		計	4	16
専門科目	看護学研究コース	感染看護学特論		2
		感染看護学演習		4
		成人看護学特論		2
		成人看護学演習		4
		在宅看護学特論		2
		在宅看護学演習		4
		コミュニティヘルス看護学特論		2
		コミュニティヘルス看護学演習		4
		母子看護学特論		2
		母子看護学演習		4
		精神看護学特論Ⅰ※		2
		精神看護学演習Ⅰ※		2
		特別研究		10
		計		44
	精神看護CNSコース	精神看護学特論Ⅱ※		2
		精神看護学特論Ⅲ※		2
		精神看護学特論Ⅳ※		2
		精神看護学特論Ⅴ		2
		精神看護学特論Ⅵ		2
		精神看護学特論Ⅶ		2
		精神看護学演習Ⅱ※		2
		精神看護学実習※		10
		課題研究※		2
		計		26
	計			70
	合 計		4	86

注) CNS コースを選択する学生は ※を必修とします。

15. 授業科目の概要・担当教員

【共通科目】

授業科目の名称	講義等の内容	2025 年度現在 担当教員
看護理論	卓越した看護実践の基盤になる看護理論の基本概念について理解する。諸理論の強みと弱みを討議し、実践、教育、研究への応用の可能性について検討する。	林 由佳 那須 明美
看護研究	看護研究の重要性とその意義、研究倫理、研究課題の明確化、文献検討、研究計画書の作成など看護実践や教育の場で共通して活用できる看護研究の知識を深め、看護実践への適用の仕方を判断する能力を高める。	揚野 裕紀子 高木 二郎
看護倫理	看護実践において看護師が直面する倫理的ジレンマや課題を抽出し、看護実践者として倫理的アプローチを用いて問題解決をする為の調整能力を培う。	揚野 裕紀子 白神 佐知子 名越 恵美
看護教育論	看護及び看護教育の現状と課題、看護教育に必要な基礎的理論を教授する。さらに看護ケアの質を高めるために必要な看護職への教育的働きかけ、教育環境を整えるなど、看護の継続教育に関する知識と技術を教授する。	林 由佳 荒木 大治 名越 恵美
看護管理論	看護管理に携わる看護職と協力して、保健医療福祉に携わる人々の調整を行い、教育的・社会的役割を担うために、専門職として必要な知識を学び実践できる力を培う。	渡邊 都貴子 松浦 正子
コンサルテーション論	看護職を含む保健医療福祉のケア提供に対して実践的な問題解決のコンサルテーションの役割と機能について理解する。また、看護職を含むケア提供者が抱える実践的な問題を解決するために必要なコンサルテーションの知識と技術を教授する。	高木 二郎
国際医療論	国際的な視点から医療・看護を理解する。グローバル化した時代における看護師の役割を学び、国際的な視点を持って看護ができる力を探求する。	中田 涼子
臨床薬理学	学部で学んだ基本的知識をもとに、チーム医療の中で医薬品の適正使用に対応できる実践的な知識とともに問題点解決能力を身につけられるように講義を進める。また、対象者の特性や症状をもとに、薬剤使用の判断、投与後のモニタリング、日常生活行動の調整、回復、服薬管理能力の向上を図るための知識と看護技術について学ぶ。	末丸 克矢 井田 裕子
病態生理学	医療、看護の実践の場において、基本となるのが病態生理である。実地臨床上でよく遭遇する症候と、それらの症候を呈する主要な疾患の病態生理を学ぶ。 エビデンスに基づき、対象者の全身にわたる病態生理学的変化を解釈、臨床看護判断を行うために必要な知識と技術について教授する。	高橋 聖之 渡邊 都貴子
フィジカル アセスメント	身体の特徴・徴候を包括的、系統的に観察し、身体機能をアセスメントするための専門的な技術を学ぶ。講義形式を基本とするが、設問や事例等による演習を取り入れた双方向形式の授業や、高機能シミュレーターを活用したハイブリッド型の講義を行う。	村田 幸治 井田 裕子

【専門科目】

看護学研究コース

授業科目の名称	講義等の内容	2025 年度現在 担当教員
感染看護学特論	近年、感染症のパンデミックや多剤耐性菌の世界的な蔓延、輸入感染症の問題など、医療を取り巻く感染症の問題はグローバルな視点で捉えなければならない。一方、侵襲的な処置が頻繁に行われるようになり、医療関連感染のリスクはますます増強するとともに、医療の機能分化から、急性期施設と療養型施設、訪問看護領域などさまざまな分野が連携して感染対策をすることが求められる。本講義では、感染看護における最新の知識を提供するとともに、医療現場における感染管理上の問題点を抽出し、その解決方法を探求する。	渡邊 都貴子 林 由佳
感染看護学演習	感染看護学に関する最新の論文の批判的購読を行う。国内外の文献の購読を行い、グローバルに感染看護に関する研究の動向を知り、今後の自己の研究課題についてまとめる。また、感染防止技術を開発する為に必要な研究能力を修得し、特別研究のための研究計画書を作成する。	渡邊 都貴子 林 由佳
成人看護学特論	慢性・長期的な健康問題（慢性疾患）を持つ人と家族の特徴や看護のあり方について探究し、今後取り組むべき研究課題の概要を明らかにする。慢性看護領域のテーマには、ストレス・コーピング、セルフケア、慢性病者の療養行動、エンパワーメント等の理論や概念が含まれる。さらに、授業では、近年重要度が高くなってきている、小児期発症慢性疾患患者の成人期への移行時支援や終末期医療のエビデンスについても理解を深める。	村田 幸治 白神 佐知子
成人看護学演習	成人看護学特論で修得した知識をもとに文献検討を行い、慢性疾患を持つ人とその家族に対する理解及び看護援助方法の開発に必要な研究方法を学び、研究方法の基本を身につける。また、自己の研究課題を明らかにするための研究方法を検討する。関係論文の読解に当たっては、研究手法として用いられている統計学的方法論についての考察が含まれる。	村田 幸治 白神 佐知子
在宅看護学特論	在宅療養者が望む安らかな死を迎えられるような終末期ケアについて学び、在宅看護における終末期の支援方法及び実践能力を向上させる。また、高齢者の生体機能とそのメカニズムについて理解し、陥りやすい症状とその予防および看護を理解する。課題を明確にするための文献クリティークを行い、研究疑問を焦点化し、適切な研究デザイン、研究方法を選択する能力を修得する。	荒木 大治 田中 愛子
在宅看護学演習	在宅で生活する療養者（高齢者とホスピスケアを中心）とその家族が持つ心身面での健康問題や生活上の問題について理解し、アセスメント方法、支援方法と支援内容等、在宅看護の特徴について理解する。	荒木 大治 田中 愛子
コミュニティヘルス 看護学特論	人々の生活の基盤はコミュニティにあり、老若男女、職業・教育・経済状況等の異なる人、また健康・不健康・要支援者が共に暮らし、家族を構成し、学校や職場のアソシエーションも構成している。コミュニティの自然的・社会的環境は健康の重要な社会的決定因子となっており、国家や地球環境の影響も大きい。人の一生に深く係わる看護学（職）がこれらの原理・原則を理解し適切な看護活動が実践されるように教授する。	田村 裕子 山野井 尚美 高木 二郎 林 由佳
コミュニティヘルス 看護学演習	コミュニティヘルスの立場から包括的保健医療福祉の構築と継続看護について研究事象の特質について理解を深め、研究事象とすべき課題、研究方法を各分野の研究課題から明確にする。	田村 裕子 山野井 尚美 高木 二郎
母子看護学特論	女性の各期のライフステージ及び、困難で複雑な健康問題を抱えた母子と家族に提供するためのより高度な看護実践能力を育成するために、対象の理解とアセスメントに必要な知識と基礎的能力を習得し、看護実践に活用する基盤を形成する。	那須 明美
母子看護学演習	生涯発達及び家族関係構築の視点で、母子領域における関心をもつテーマを決め、国内外の文献を検討し研究計画を立案する。	那須 明美

授業科目の名称	講義等の内容	2025 年度現在 担当教員
精神看護学特論Ⅰ	卓越した精神看護を行うために必要な精神保健医療福祉に関する法律、制度、政策について学び実践に適用する能力を育成すると共に、精神看護の歴史や現状を理解した上で、患者と家族の基本的人権を保障し、ノーマライゼーションの実現をめざす精神医療の展望を探究する。	揚野 裕紀子 井田 裕子
精神看護学演習Ⅰ	科学的・実践的な精神専門看護師に必要な、精神科におけるさまざまな治療技法を理解したうえで、個人、家族、及び集団に対し、ライフスパンにて対象を捉え、急性期、回復期、維持期といった回復段階に応じて、卓越した働きかけを行うために必要な知識と支援方法について学ぶ。	揚野 裕紀子 井田 裕子
特別研究	特論・演習で学んだ事を基盤に、各専門領域の研究テーマを設定し、担当指導教員の指導・助言のもと研究計画の立案、データ収集と分析、修士論文作成までの研究プロセスを実践し、研究論文を完成させる。	田村 裕子 渡邊 都貴子 村田 幸治 高木 二郎 揚野 裕紀子 井田 裕子

精神看護CNSコース

授業科目の名称	講義等の内容	2025 年度現在 担当教員
精神看護学特論Ⅱ	科学的・実践的な精神専門看護師に必須の精神障害者の理解とアセスメントについて学び、精神的な課題を持つ人の評価に関する基礎的能力を習得し、入院精神看護及び地域精神看護の基盤を形成する。	揚野 裕紀子 高木 二郎 井田 裕子
精神看護学特論Ⅲ	科学的・実践的な精神専門看護師に必要な、精神療法（セラピー）に関する理論と技法について学び、入院精神看護及び地域連携精神看護での実践に活用する基盤を形成する。	揚野 裕紀子 井田 裕子
精神看護学特論Ⅳ	精神看護専門看護師としての役割と機能を果たすための基盤になる精神のとらえ方について理解する。特に、精神専門看護師に必要な諸理論と技法について学び、実践への応用について検討する。	揚野 裕紀子 井田 裕子
精神看護学特論Ⅴ	専門看護師として慢性期・長期入院患者に対してその疾患から来る特徴を十分に理解して、看護実践を行うための理論と援助実践について学び、実践する技法を理解する。	揚野 裕紀子 井田 裕子
精神看護学特論Ⅵ	地域精神看護領域において卓越した地域リハビリテーションなど看護実践を行うために必要とされる理論と援助技法について理解する。	揚野 裕紀子 井田 裕子
精神看護学特論Ⅶ	リエゾン精神看護の発展の歴史について学び、その機能と役割を理解し、一般科患者の精神的問題への診断や治療と直接的ケア、コンサルテーション能力を高めるために必要な知識や技術を深める。また、医療チームとの連携や看護師自身のメンタルヘルスにおける介入の実践を学び、実践への応用力を修得する。	揚野 裕紀子 井田 裕子 岩切 真砂子 早川 昌子
精神看護学演習Ⅱ	科学的・実践的な精神看護専門看護師に必要な多様な役割（直接ケア、リエゾン、コンサルテーション、調整、倫理調整、教育、研究）について理解し、実践力を身につける。特論で学んだ理論・技術を実践で活用する方策を事例や現役CNSの実践を通して学ぶ。	揚野 裕紀子 井田 裕子 岩切 真砂子
精神看護学実習	精神看護専門看護師としての役割と機能を身につけるために、さまざまな精神の健康問題をもつ患者や家族のケースを受け持ち更に、精神看護専門看護師の役割について、精神看護専門看護師と教員のスーパーバイズを受けて精神看護専門看護師の活動の実践をとおして、必要な高度なアセスメント能力、直接介入の能力を養う。	揚野 裕紀子 井田 裕子
課題研究	専門看護師資格取得希望者が、当該看護専門領域における特定の課題に対して、担当指導教員の指導・助言のもと課題研究論文を完成させる。	揚野 裕紀子 井田 裕子

専門看護師認定審査の受験資格について

日本看護協会専門看護師認定審査『2025年度審査・申請の手引き』より改変

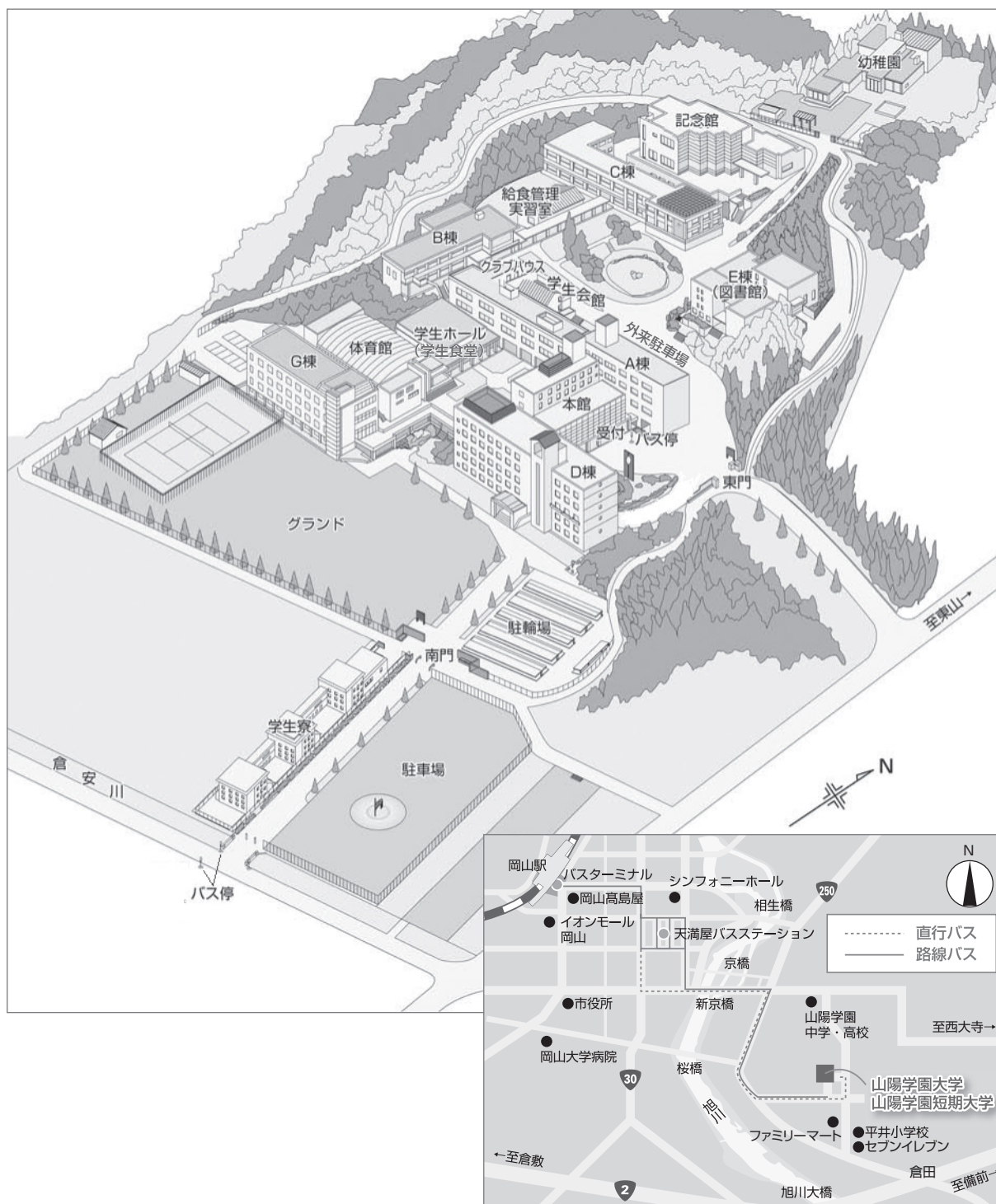
※詳しくは、日本看護協会HP及び専門看護師（CNS）認定審査『審査・申請の手引き』を参照。

受験資格

専門看護師認定を申請する者は、次の「1. 免許要件」、「2. 教育要件」、「3. 実務研修要件」に定める項目をすべて満たしていなければなりません。

1. 免許要件：日本国の看護師免許を有すること。
2. 教育要件：所定の教育を修了していること（以下の条件のいずれかを満たす者であること）。
 - ・コース内：1) 看護系大学大学院修士課程修了者で、日本看護系大学協議会専門看護師教育課程基準の所定の単位を取得した者。なお、看護系大学大学院修士課程修了者で、日本看護系大学協議会専門看護師教育課程基準の所定の単位に満たないものは、必要単位を更に取得するものとする。
 - ・コース外：2) 看護学以外の関連領域の大学院等を修了した者で、1)において必要単位を更に取得した者
 - 3) 外国において1)または2)と同等以上の教育を受けたと認められる者
3. 実務研修要件：専門看護師としての必要な下記1)～3)全ての実務研修を行っていること。
 - 1) 看護師免許を取得後、通算5年以上実務研修を受けており、そのうち3年以上は専門看護分野の実務研修であること。
 - 2) 専門看護分野において下記(1)～(6)の実務研修をしていること。
 - (1) 実践：個人、家族及び集団に対して卓越した看護を実践する。
 - (2) 相談：看護者を含むケア提供者に対しコンサルテーションを行う。
 - (3) 調整：必要なケアが円滑に行われるために、保健医療福祉に携わる人々の間のコーディネートを行う。
 - (4) 倫理調整：個人、家族及び集団の権利を守るために、倫理的な問題や葛藤の解決を図る。
 - (5) 教育：看護者に対し、ケアを向上させるための教育的機能を果たす。
 - (6) 研究：専門知識及び技術の向上並びに開発を図るための実践の場における研究活動を行う。
 - 3) 現在、常勤、非常勤勤務を問わず看護実践を行っていることが望ましい。

学内案内図・アクセス



＜公共機関ご利用の場合＞

- JR岡山駅バスターミナル〔1番のりば〕より、路線バスで山陽学園大学経由「新岡山港」・「岡山ふれあいセンター」・「三幡南」行に乗車（約25分）、「山陽学園大学・短大前」で下車。
- 天満屋バスステーションからは〔1番のりば〕より上記バスで約15分。

〈入試に関するお問い合わせ〉

山陽学園大学 入試部

〒703-8501 岡山県岡山市中区平井1丁目14-1

TEL 086-272-4024(直通)・086-272-6254(代表)

FAX 086-272-5504(直通)

E-mail nyushi@sguc.ac.jp
